

Optical Disc Archive Utility

ヘルプ

ODS-D55U

ODS-D77U

ODS-D280U

Optical Disc Archive Software について

概要

本ソフトウェアは、ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U に接続したコンピューター上で、ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U に対して以下の機能を実行することができます。

- **情報表示機能**
 - ドライブ情報
 - メディア情報
- **セットアップ機能**
 - 動作モード設定
 - カートリッジメモリを利用した、メディアの記録禁止設定
- **メディア操作機能**
 - ロールバック
 - フォーマット
 - ファイナライズ
 - ファイル修復
 - ボリューム複製
- **メンテナンス機能**
 - ファームウェア更新
 - ログ表示とエクスポート
 - システムチェック

関連マニュアル

OPERATION MANUAL

ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U に付属のマニュアルです。

ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U および付属のソフトウェアの使いかたについて説明しています。

動作環境

本ソフトウェアを動作させるには、以下の条件を備えたコンピューターを用意してください。

項目	条件
プロセッサ	ODS-D55U/D77U/D77UA : Intel Core 2 Duo 2.66GHz 以上または Intel Xeon 2.0GHz 以上 ODS-D280U : 3rd Generation Intel Core i5 2.5GHz 以上または Intel Xeon 2.27GHz 以上
メモリー	ODS-D55U/D77U/D77UA : 2GB × (接続台数 +1) 以上 ODS-D280U : 4GB × (接続台数 +1) 以上
インストール先の空き容量	ODS-D55U/D77U/D77UA : 32GB+16GB × (接続台数 +1) 以上 ODS-D280U : 32GB+32GB × (接続台数 +1) 以上
Operating system	Sony Creative Software のサイト ^{a)} またはソニープロフェッショナル / 業務用製品サイト ^{b)} をご覧ください。
その他	ODS-D55U/D77U/D77UA : Hi-Speed USB (USB 2.0) 対応 (Hi-Speed USB (USB 2.0) ホストコントローラーが必要) SuperSpeed USB (USB 3.0) 対応 (SuperSpeed USB (USB 3.0) ホストコントローラーが必要) ODS-D280U : SuperSpeed USB (USB 3.0) 対応 (SuperSpeed USB (USB 3.0) ホストコントローラーが必要)

a) Sony Creative Software のサイト

<http://www.sonycreativesoftware.com/>

b) ソニープロフェッショナル / 業務用製品サイト

アメリカ合衆国	http://pro.sony.com
カナダ	http://www.sonybiz.ca
ラテンアメリカ	http://sonypro-latin.com
ヨーロッパ	http://www.pro.sony.eu/pro
中東、アフリカ	http://sony-psmea.com
ロシア	http://sony.ru/pro/
ブラジル	http://sonypro.com.br
オーストラリア	http://pro.sony.com.au
ニュージーランド	http://pro.sony.co.nz
日本	http://www.sonybsc.com
アジア	http://pro.sony-asia.com
韓国	http://bp.sony.co.kr
中国	http://pro.sony.com.cn
インド	http://pro.sony.co.in

Optical Disc Archive Utility について

起動と終了


起動する

本ソフトウェアを起動するには、以下のいずれかを実行します。

- インストールフォルダー (/usr/bin/odutility) をダイレクトに実行する。
- アプリケーションメニューの " システムツール " から Optical Disc Archive Utility を選択する。

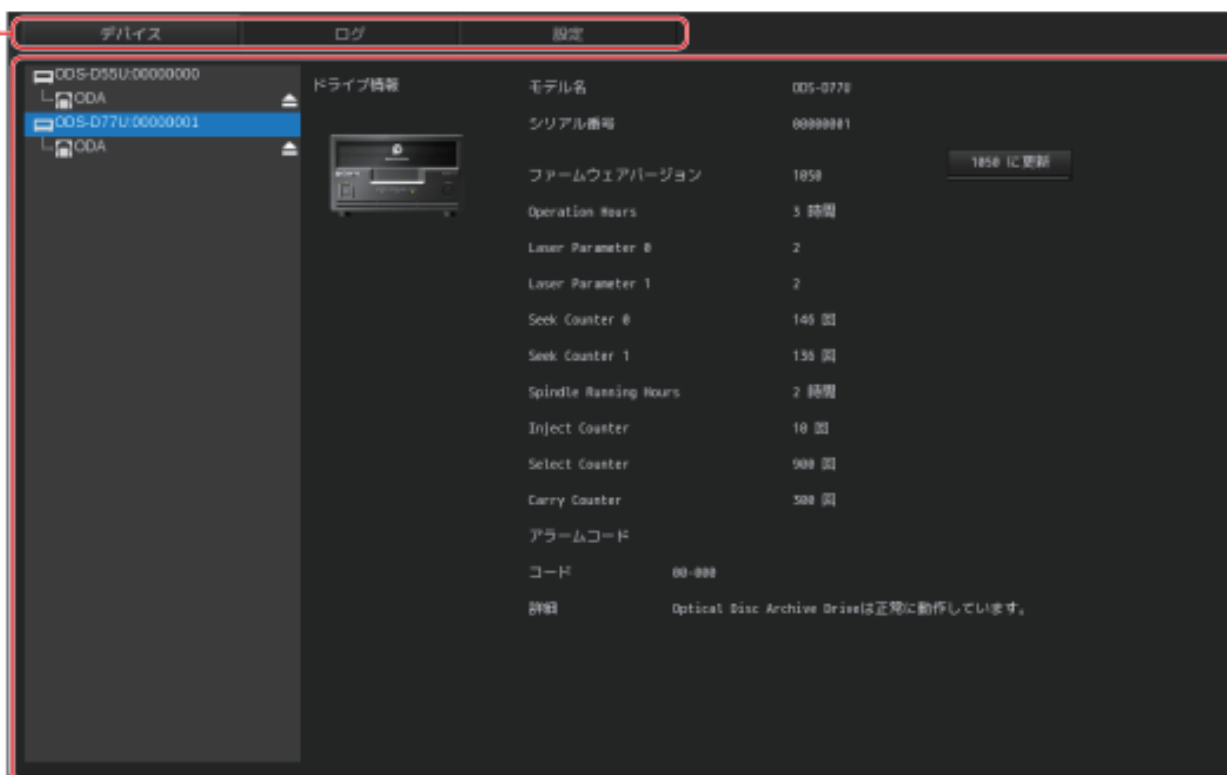
終了する

本ソフトウェアを終了するには、以下のいずれかを実行します。

- 本ソフトウェアのタイトルバーを右クリック、「閉じる (C)」を選択する。
- タイトルバー  (閉じる) ボタンを押す。
- 本ソフトウェアが選択された状態で、Alt + F4 キーを実行する。

各部の名称と働き

タブ



情報表示部/操作部

メニューバー

メニューの名称をクリックすると、機能を実行するためのコマンドが表示されます。

タブ

デバイス画面、ログ画面、設定画面を切り換えます。

情報表示部 / 操作部

タブで選択した画面が表示されます。

メニューバーの項目

メニューバーには、以下のメニューおよびコマンドが用意されています。

表示メニュー

最小化

移動

最前面へ

全てのワークスペースに配置する

現在のワークスペースのみ

右側のワークスペースに移動する ※左側のワークスペースに配置されているとき
または

左側のワークスペースに移動する ※右側のワークスペースに配置されているとき

閉じる

ツールメニュー

システムチェック

Optical Disc Archive Software が正しく動作する環境であるかどうかを判定します。

CPU の性能測定のために EEMBC ベンチマークソフトウェアである CoreMark-Pro を使用しています。



<http://www.eembc.org/>



ご注意

パフォーマンスを保証するものではありません。

ファイルキャッシュの保存先を変更する

ファイルキャッシュの保存先を変更します。

関連項目

起動と終了

各操作画面の機能

デバイス画面

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ツリー表示部 - ドライブ情報

The screenshot displays a software interface with a dark theme. At the top, there are three tabs: 'デバイス' (Devices), 'ログ' (Logs), and '設定' (Settings). The 'デバイス' tab is active, showing a tree view on the left with three entries: '005-D95U:00000000', '005-D77U:00000001', and another '005-D95U:00000000'. The second entry is selected and highlighted in blue. To the right of the tree view, there is a section titled 'ドライブ情報' (Drive Information) which includes a small image of the drive. Further to the right is a table of parameters and their values. A '1856 に更新' (Update to 1856) button is visible next to the 'ファームウェアバージョン' (Firmware Version) row. At the bottom of the table, there is a status message: 'Optical Disc Archive Driveは正常に動作しています。' (Optical Disc Archive Drive is operating normally).

項目	値
モデル名	005-0770
シリアル番号	00000001
ファームウェアバージョン	1856 1856 に更新
Operation Hours	3 時間
Laser Parameter 0	2
Laser Parameter 1	2
Seek Counter 0	146 回
Seek Counter 1	135 回
Spindle Raising Hours	2 時間
Inject Coaster	10 回
Select Coaster	900 回
Carry Coaster	500 回
アラームコード	
コード	00-000
詳細	Optical Disc Archive Driveは正常に動作しています。

ツリー表示部

情報表示部/操作部

ツリー表示部 - メディア情報



ツリー表示部には、接続されているドライブ（モデル名、シリアル番号）とメディアが表示されます。リストの一番右には、Eject アイコンが表示されます。ここで選択したドライブまたはメディアについての情報が、右側の情報表示部 / 操作部に表示されます。

ご注意

コンピューター 1 台につき 4 台のドライブを接続することができます。

情報表示部 / 操作部

ツリー表示部で選択したドライブまたはメディアの情報表示または操作をします。

ドライブ情報

項目名	表示内容
モデル名	選択されているドライブの名称 (ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U)
シリアル番号	選択されている ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U のシリアル番号
ファームウェアバージョン	選択されている ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U のファームウェアバージョン
Operation Hours ^{a)}	ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U に電源が投入されている時間の累積 (1 時間単位)
Laser Parameter 0 ~ 3 ^{a)}	オプティカルヘッドの光出力時間の累積
Seek Counter 0 ~ 3 ^{a)}	オプティカルヘッドのシーク動作回数の累積
Spindle Running Hours ^{a)}	スピンドルが回転している時間の累積 (1 時間単位)
Inject Counter ^{a)}	カートリッジの挿入回数の累積
Select Counter ^{a)}	内部ディスクの押し出し回数

項目名	表示内容
Carry Counter ^{a)}	内部ディスクの搬送回数
Disc Guide Counter	ディスク搬送ローラー等によるディスク搬送回数の累計
Carry Motor (H) Counter	Carry Motor (H) によるディスク搬送回数の累計
Carry Motor (V) Counter	Carry Motor (V) によるディスク搬送回数の累計
Air Filter Parameter	エアフィルター稼働時間の累計 (リセット可能) ^{b)}
アラームコード	選択されているドライブで発生したアラームを表示

a) ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U の動作経過時間または動作回数が累積で表示されますので、定期点検の目安としてご利用ください。なお、定期点検はソニーのサービス担当者にご相談ください。

b) Air Filter Parameter のリセット方法は、エアフィルター (RP) に同梱のインストレーションマニュアルをご覧ください。

ご注意

機種により表示されない項目があります。

ドライブ操作

項目名	内容
1.090 に更新 ^{c)}	選択されているドライブのファームウェアバージョンを更新

c) パッケージに含まれている Firmware バージョンが 1.090 のとき。

メディア情報

項目名	表示内容
ベンダー	選択されているメディアの製造元
製品名	選択されているメディアの製品名
メディアシリアル番号	選択されているメディアのシリアル番号
メディアタイプ	選択されているメディアのタイプと容量 <ul style="list-style-type: none"> Optical Disc Archive 1 Rewritable 300GB Optical Disc Archive 1 Rewritable 600GB Optical Disc Archive 1 Rewritable 1200GB Optical Disc Archive 1 Write-Once 300GB Optical Disc Archive 1 Write-Once 600GB Optical Disc Archive 1 Write-Once 1500GB Optical Disc Archive 2 Write-Once 3300GB
ボリュームタイプ	選択されているメディアのボリュームタイプ
マウント状態	選択されているメディアのマウント状態
記録操作	選択されているメディアの記録可否
総容量	選択されているメディアの総容量
空き容量	選択されているメディアの記録可能容量
総ディレクトリ数	選択されているメディア内の総ディレクトリ数
総ファイル数	選択されているメディア内の総ファイル数
リライト回数	選択されているメディアの累積リライト回数 (リライタブルメディアのみ表示)
フォーマット回数	選択されているメディアの累積フォーマット回数 (リライタブルメディアのみ表示)

項目名	表示内容
追記リソース	[なし]、[残少]、[充分] の 3 状態を表示 (ライトワンスメディアのみ表示)

メディア操作

項目名	内容
[ロールバック] ボタン	ロールバックポイントの検索を開始
[フォーマット] ボタン	フォーマット処理を開始
[ファイナライズ] ボタン	ファイナライズ処理を開始
[ファイル修復] ボタン	ファイル修復のリスト画面を表示
[記録禁止 (または記録禁止解除)] ボタン	メディアの記録禁止設定 (または記録禁止解除) を開始
[ボリューム複製] ボタン	ボリューム複製処理を開始

関連項目

アラームコード

デバイス画面 - メディアの記録禁止設定



カートリッジメモリを利用したメディアの記録禁止設定を行うには

1. [記録禁止] ボタンをクリックする。
「記録禁止設定を変更しますか? 変更後、自動的にカートリッジが排出されます。」というメッセージが表示されます。
2. [適用] ボタンをクリックする。
メディアは記録禁止となり、カートリッジが排出されます。

カートリッジメモリを利用したメディアの記録禁止解除を行うには

1. [記録禁止解除] ボタンをクリックする。
「記録禁止設定を変更しますか? 変更後、自動的にカートリッジが排出されます。」というメッセージが表示されます。
2. [適用] ボタンをクリックする。
メディアは記録禁止解除となり、カートリッジが排出されます。

アラームコード

現在選択されている ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U で発生したアラームが表示されます。この情報は異常な状態が解消されるまで保持されます。

コード

選択された ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U に発生しているアラームの番号が表示されます。

詳細

選択された ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U に発生しているアラームの内容や対応方法が表示されます。アラームの内容については、アラームコード一覧をご覧ください。

最新の情報に更新するには

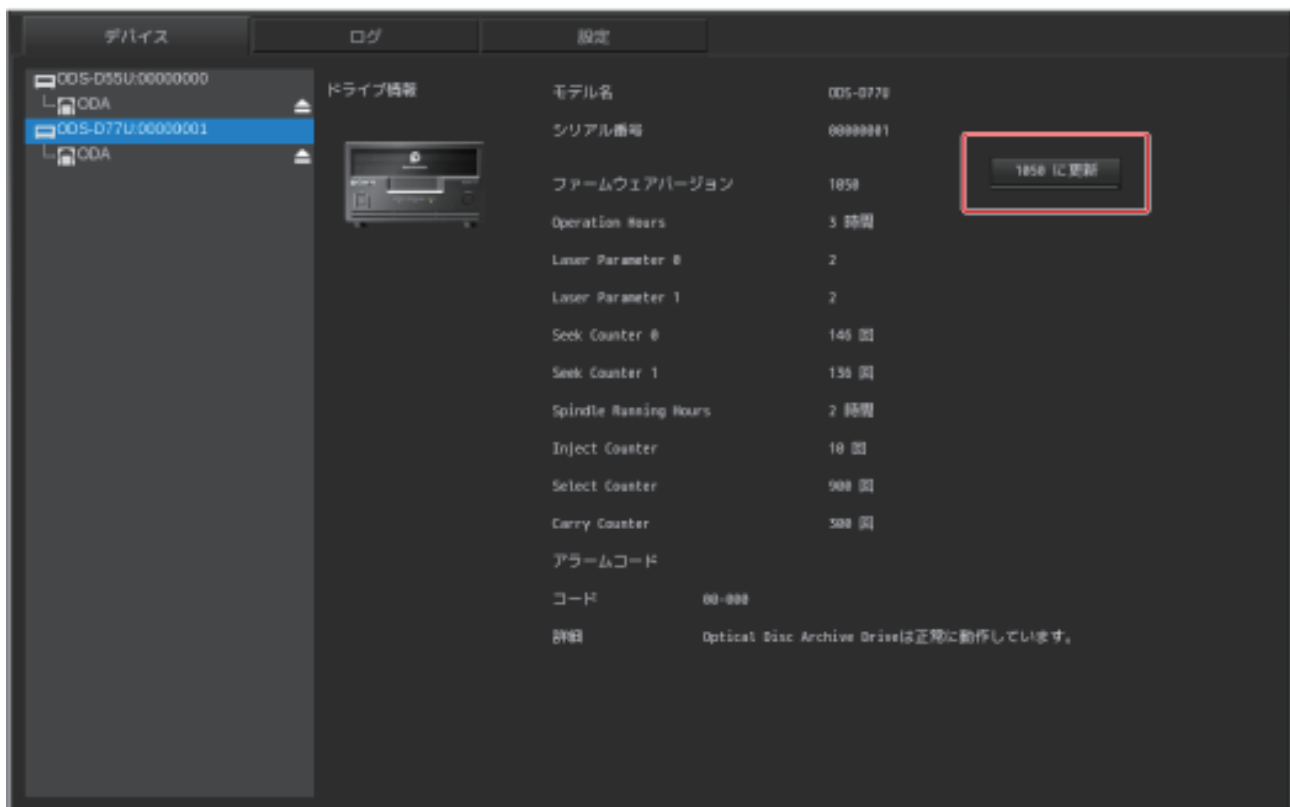
表示メニューから [更新] を選択します。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ファームウェア更新

ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U のファームウェアを更新します。



ファームウェアを更新するには

1. [1.630 に更新] ボタンをクリックする。^{a)}

「ファームウェアを更新しますか?」というメッセージが表示されます。

2. [はい] ボタンをクリックする。

「ファームウェアを更新しています。PC およびドライブの電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください」というメッセージが表示され、更新が始まります。

しばらくするとドライブが再起動し、更新が終了します。

a) パッケージに含まれている Firmware バージョンが 1.630 のとき。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ロールバック

ファイルシステム管理情報や、ファイルを誤って削除してしまった場合などは、過去のロールバックポイントを検索してファイルを復元することができます。



ロールバックを行うには

1. [ロールバック] ボタンをクリックする。
「ロールバックポイント検索」画面が表示されロールバックポイントの検索が始まります。
2. 検索結果リストからロールバックポイントを選択し、[マウント] ボタンをクリックする。
メッセージが表示され、ロールバックポイントへの読み出し専用でマウントを開始します。
ロールバックポイントへ読み出し専用マウントが成功すると、「ロールバックポイントへの読み出し専用マウントに成功しました。Optical Disc Archive Filerでマウント中のボリュームまたはボリューム内のファイルおよびディレクトリーを別のボリュームにコピーできます。または、下記のいずれかを選択してください。」というメッセージが表示されます。
3. [このロールバックポイントを追記可能に適用する] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
メッセージが表示され、ロールバックポイントへ追記可能でマウントを開始します。
「追記可能マウントを適用しました。ロールバックを完了しました。」というメッセージが表示され、ロールバック処理が完了します。

ロールバックを行うには（容量を回復）

リライタブルメディアを使用している場合は、選択したロールバックポイントより新しい時刻のロールバックポイントを削除しながらロールバック処理を行うことにより、メディア容量を回復させることができます。

1. ロールバック処理の手順3で [このロールバックポイントを追記可能に適用する] と [メディア容量を回復する] の両方を選択して [OK] ボタンをクリックする。

ご注意

削除したロールバックポイントは復元することはできません。

ロールバックを行うには（ファイル修復）

読み出し専用マウント中にボリューム内のファイルを修復することができます。

1. ロールバック処理の手順2で「このボリューム内のファイルを修復する」を選択して、[OK] ボタンをクリックする。

ロールバックを行うには（ボリューム複製）

1. ロールバック処理の手順3で「このボリュームを別のメディアに複製する」を選択して [OK] ボタンをクリックする。
「ボリューム複製をしますか？ボリューム複製中はファイルを変更しないでください。」というメッセージが表示されます。
2. [はい] ボタンをクリックする。
「複製先を選択してください。」というメッセージが表示されます
3. [別のボリュームを選択する。] を選択して [OK] ボタンをクリックする。
表示された画面で別のボリュームから空のフォルダーを選択、または [新しいフォルダーの作成] ボタンをクリックして新しいフォルダーを作成して [OK] ボタンをクリックする。
ボリュームの複製が始まります。複製の進捗がプログレスバーで表示されます。

ヒント

Optical Disc Archive のボリュームを複製先にするとき、[Disc spanning を制限する。] オプションを選択すると、単一ファイルが複数のディスクにまたがって記録されることが少なくなるように制限することができます。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

フォーマット

メディア内のすべてのファイルとディレクトリを削除します。

ヒント

フォーマット処理を行っても、ロールバック機能でフォーマット処理前の状態に戻すことができます。

ご注意

- フォーマット処理を行っても、メディア容量は回復しません。
- [メディア容量を回復する] オプションを選択するとメディア容量は回復しますが、ロールバック機能は使用できなくなります。
- フォーマットできないとき
記録禁止になっています。以下の内容を確認してから、再度フォーマットを行ってください。
 - Optical Disc Archive Drive で書き込み可能なカートリッジであるか（詳しくは ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U OPERATION MANUAL をご覧ください。）
 - カートリッジの記録禁止タブが [記録禁止] の状態になっていないか（詳しくは ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U OPERATION MANUAL をご覧ください。）
 - 設定画面で [ドライブを記録禁止にする] チェックボックスがオンになっていないか（チェックボックスをオフにしてから「動作モードを変更するには」を実行してください。）
 - デバイス画面 - メディア情報画面で [記録禁止] ボタンの表示が [記録禁止解除] になっていないか



フォーマットを行うには

1. [フォーマット] ボタンをクリックする。

「フォーマットをしますか?フォーマットすると、すべてのファイルが消去されます。」というメッセージが表示されます。

2. [はい] ボタンをクリックする。

フォーマットが完了すると「フォーマットに成功しました。」というメッセージが表示されます。

3. [閉じる] ボタンをクリックする。

フォーマット処理が終了します。

フォーマットを行うには (容量を回復)

リライタブルメディアを使用している場合はメディア全体を初期化して、記録済みの領域を利用可能にすることができます。また、Optical Disc Archive 1 カートリッジが挿入されているときは、ボリュームタイプを PARITY ON (Max: 60000 files)、または PARITY OFF (Max: 240000 files) から選択することができます。

1. フォーマット処理の手順 2 で [メディア容量を回復する] を選択して [OK] ボタンをクリックする。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ファイナライズ (ライトワンスメディアのみ)

ファイナライズ処理を行うと読み出し専用のメディアになり、それ以降のファイルの書き込みはできなくなります。データの耐障害性が向上します。

ご注意

- ファイナライズできないとき
記録禁止になっています。以下の内容を確認してから、再度ファイナライズを行ってください。

- Optical Disc Archive Drive で取り扱い可能なカートリッジであるか（詳しくは ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U OPERATION MANUAL をご覧ください。）
- カートリッジの記録禁止タブが [記録禁止] の状態になっていないか（詳しくは ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U OPERATION MANUAL をご覧ください。）
- 設定画面で [ドライブを記録禁止にする] チェックボックスがオンになっていないか（チェックボックスをオフにしてから「動作モードを変更するには」を実行してください。）
- デバイス画面 - メディア情報画面で [記録禁止] ボタンの表示が [記録禁止解除] になっていないか



ファイナライズを行うには

1. [ファイナライズ] ボタンをクリックする。
「ファイナライズをしますか？ファイナライズすると、このメディアは読み出し専用となります。また、この操作は取り消しできません。」というメッセージが表示されます。
2. [はい] ボタンをクリックする。
ファイナライズが完了すると「ファイナライズに成功しました。」というメッセージが表示されます。
3. [閉じる] ボタンをクリックする。
ファイナライズ処理が終了します。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ファイル修復

ファイルが破損した場合に修復、復元することができます。



ファイル修復を行うには

ファイルを登録する

1. [ファイル修復] ボタンをクリックする。
リスト画面が表示されます。
2. [ファイル追加] ボタンをクリックする。
3. 表示された画面で、修復したいファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックする。
修復したいファイルがリスト画面に追加されます。

ヒント

手順3で表示された画面にドラッグアンドドロップしてファイルを追加することもできます。

ファイル修復を行う

1. [ファイル修復] ボタンをクリックする。
リスト画面が表示されます。
2. 修復したいファイルを選択して [修復実行] ボタンをクリックする。
3. 表示された画面で、修復後の保存先を選択し [OK] ボタンをクリックする。
リスト画面に戻り、ファイル修復が始まります。ファイル修復が完了すると、「状態」のステータスが「修復成功」に変わります。

ご注意

ファイル修復を実行すると、カートリッジからファイルを読み出して修復した後、HDDなどの他ストレージに保存します。

ボリュームチェックを行うには

ファイルシステムのチェックと修復を行います。

ボリュームをチェックする

1. [ファイル修復] ボタンをクリックする。
リスト画面が表示されます。
2. [ボリュームチェック] ボタンをクリックする。
「ボリュームチェックを実行しますか?」というメッセージが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックする。
ボリュームチェック画面が表示されボリュームチェックが実行されます。
4. ボリュームチェック完了後、問題が検出されなければ、「問題は見つかりませんでした。」というメッセージが表示されます。

問題が検出された場合、表示されたダイアログの指示に従ってボリュームを修復してください。

ご注意

破損したファイルを修復するには、「ファイル修復を行うには」をご覧ください。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ボリューム複製

選択しているメディアのデータをボリューム単位またはフォルダー単位で別のメディアに短時間で複製することができます。

また、ODC (Optical Disc Cartridge) 以外のハードディスクなどに複製することもできます。



Optical Disc Archive ボリュームから、ローカルディスクなどの他ファイルシステムのボリュームに複製する

1. [ボリューム複製] ボタンをクリックする。
「ボリューム複製をしますか？ボリューム複製中はファイルを変更しないでください。」というメッセージが表示されます。
2. [はい] ボタンをクリックする。
表示された画面から [ボリューム単位の複製をする。] または [フォルダー単位の複製をする。] を選択し、[OK] ボタンをクリックしてください。[フォルダー単位の複製をする。] を選択した場合は、[参照] ボタンをクリックして、表示された画面から複製したいフォルダーを選択してください。
3. [別のボリュームを選択する。] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
表示された画面から複製したいフォルダーを選択、または新しいフォルダーを作成して [OK] ボタンをクリックしてください。
4. [ボリューム複製を終了する。] または [再書き込みをする。] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
ボリュームの複製が始まります。複製の進捗がプログレスバーで表示されます。

Optical Disc Archive ボリュームから別の Optical Disc Archive ボリュームに複製する

1. [ボリューム複製] ボタンをクリックする。
「ボリューム複製をしますか？ボリューム複製中はファイルを変更しないでください。」というメッセージが表示されます。
2. [はい] ボタンをクリックする。
表示された画面から [ボリューム単位の複製をする。] または [フォルダー単位の複製をする。] を選択し、[OK] ボタンをクリックしてください。[フォルダー単位の複製をする。] を選択した場合は、[参照] ボタンをクリックして、表示された画面から複製したいフォルダーを選択してください。
3. [Optical Disc Archive Drive のボリュームを選択する。] を選択し、プルダウンメニューから別の Optical Disc Archive ボリュームを選択して、[OK] ボタンをクリックする。
その際、空のフォルダーを選択する、または新規フォルダーを作成してください。
4. [ボリューム複製を終了する。] または [再書き込みをする。] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
ボリュームの複製が始まります。複製の進捗がプログレスバーで表示されます。

ヒント

複製先を選択時、[Disc spanning を制限する。] オプションを選択すると、単一ファイルが複数のディスクにまたがって記録されることが少なくなるように制限することができます。

同一の Optical Disc Archive ボリュームに複製する

1. [ボリューム複製] ボタンをクリックする。
「ボリューム複製をしますか？ボリューム複製中はファイルを変更しないでください。」というメッセージが表示されます。
2. [はい] ボタンをクリックする。
表示された画面から [ボリューム単位の複製をする。] を選択し、プルダウンメニューから、同一の Optical Disc Archive ボリュームを選択して、[OK] ボタンをクリックしてください。

3. 別のボリュームから退避先を選択して、[OK] ボタンをクリックする。
4. [ボリューム複製を終了する。] または [再書込みをする。] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
複製元から退避先にボリュームの複製が始まります。複製の進捗がプログレスバーで表示されます。
複製元から退避先にボリューム複製が終わると、自動的にカートリッジが排出されて、[複製先として別のカートリッジを挿入してください。] というメッセージが表示されます。
5. カートリッジを挿入して [OK] ボタンをクリックする。
[別のカートリッジを挿入した場合] => 6 へ
[同一のカートリッジ挿入した場合] => 7 へ
6. [メディアをフォーマットする。フォーマットされたメディアに複製する。] または [選択したフォルダーに複製する。] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
退避先から複製先にボリュームの複製が始まります。複製の進捗がプログレスバーで表示されます。
7. 「複製元と同じカートリッジが挿入されました。別のカートリッジに複製されることを推奨します。」というメッセージが表示される。
[再選択] または [確認] をクリックしてください。
[再選択] をクリックすると自動的にカートリッジが排出されて、[複製先として別のカートリッジを挿入してください。] というメッセージが表示されます。
[確認] を選択した場合は 6 へ

ヒント

複製先を選択時、[Disc spanning を制限する。] オプションを選択すると、単一ファイルが複数のディスクにまたがって記録されることが少なくなるように制限することができます。

関連項目

デバイス画面 - 各部の名称と働き

ログ画面

ログ画面 - 各部の名称と働き

ドライバーに発生したログが表示されます。



日付

ログを表示したい日付を選択します。

▼をクリックすると、ログのある日付がリスト形式で表示されます。

ログ

選択した日付のログ一覧が表示されます。

ログの種類を [情報] [警告] [エラー] でフィルタリングすることができます。

リストをダブルクリックまたは、右クリックすると、ログの詳細ダイアログが表示されます。

項目名	表示内容
種類	ログの種類 (情報 / 警告 / エラー) を表示
時刻	ログの発生時刻
内容	ログの内容

エクスポートボタン

ログを任意の場所にエクスポートします。

ご注意

Optical Disc Archive Drive のボリュームを選択することはできません。

ログをエクスポートするには

1. [エクスポート] ボタンをクリックする。
「名前をつけて保存」画面が表示されます。
2. ファイル名と保存する場所を指定し、[保存] ボタンをクリックする。
「エクスポートを完了しました。」というメッセージが表示されます。

3. [閉じる] ボタンをクリックする。
指定した場所にログがエクスポートされます。

最新の情報に更新するには
表示メニューから [更新] を選択します。

ご注意

- 古いバージョンの Optical Disc Drive ファームウェアではドライブログを取得できないことがあります。
- カートリッジが挿入されているドライブからはドライブログを取得することができません。

設定画面

設定画面 - 各部の名称と働き

ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U と Optical Disc Archive Software の動作モードを設定します。

ご注意

設定の変更を有効にするには、カートリッジを入れ直す必要があります。



動作モード

動作モード	内容
ベリファイ記録をする	Optical Disc Archive 1 メディアにベリファイ記録をする ボリュームに正しく書き込まれたかを検証しながら、ファイルを書き込みます。 Optical Disc Archive 2 メディアは常にベリファイ記録されます。 ご注意 転送速度が変わります。詳しくは ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U OPERATION MANUAL をご覧ください。
ドライブを記録禁止にする	ドライブへの記録を防ぐ
記録完了後、直ちに管理情報をメディアに同期する	記録中に障害が発生しても、記録済ファイルは保存されます。 ご注意 オンにした場合、記録中に電源断などの障害が発生しても、障害発生までに記録が完了していたファイルを保障するモードとなります。次回マウント時には、障害発生時に記録中であった最後のファイルは消去されますが、他の記録済ファイルは自動的に復元されます。 オフにすることで、特に小さなファイルを連続記録するときのパフォーマンスが向上します。また、メディアの使用効率が向上します。一方で、記録中に障害が発生した場合は、最後の連続記録動作の、前の状態までファイルシステムがロールバックされるため、多数のファイルが消去されるリスクがあります。電源環境などの安全性が確保できない場合は、オンにすることを推奨します。
既定のボリュームタイプ	Optical Disc Archive 1 : 未フォーマットメディアを挿入すると、このボリュームタイプに自動フォーマットされます。 Optical Disc Archive 2 メディアは常にパリティ付加されて記録されます。最大ファイル数は 480000 です。 ご注意 パリティ付加記録をすると、「ファイル修復」を行うときにパリティ情報からエラー訂正を行うため、破損したファイルを修復・復元することができます。

出荷時設定に戻すボタン

動作モードを出荷時の設定に戻します。

適用ボタン

動作モードを確定させます。

動作モードを変更するには

1. いずれかの動作モードのチェックボックスを選択する。[既定のボリュームタイプ]はプルダウンメニューから選択する。
2. [適用] ボタンをクリックする。
「動作モード設定が変更されました。動作モード設定を有効にするために、カートリッジを入れなおしてください。」というメッセージが表示されます。
3. [閉じる] ボタンをクリックする。
4. カートリッジを入れ直す。
動作モードが変更されました。

動作モードを出荷時設定に戻すには

1. [出荷時設定に戻す] ボタンをクリックする。
「動作モード設定を出荷時の設定に戻しますか?」というメッセージが表示されます。
2. [はい] ボタンをクリックする。
「動作モード設定が変更されました。動作モード設定を有効にするために、カートリッジを入れなおしてください。」というメッセージが表示されます。
3. [閉じる] ボタンをクリックする。
4. カートリッジを入れ直す。
動作モードが出荷時設定に戻りました。

付録

■ アラームコード一覧

デバイス画面のドライブ情報に表示されるアラームの内容を、ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U の状態別に記載します。

異常な状態が解消されると、インジケータは消灯します。

- カートリッジ挿入時のアラーム
- 操作時のアラーム
- センサーおよびドライブに関するアラーム

カートリッジ挿入時のアラーム

LED ^{a)}	アラームコード	意味	対処方法
0.25 秒間隔で点滅	50-010 50-011 51-020 51-021 54-008	ディスクの管理領域を読み込めない。	このメディアは使用できません。別のカートリッジを挿入してください。
	51-500	未対応ディスクを検出しました。 このメディアを使用するには最新のファームウェアが必要です。	最新の Optical Disc Archive Software を入手し、インストールした後、ファームウェアを更新してください。
1 秒間隔で点滅	21-001 6D-000	このカートリッジの交換時期が近付いています。	早めに別のカートリッジへデータを移行されることを推奨します。
	21-100	このメディアは使用できません。	ソニーサービス担当者にご相談ください。
	54-009	カートリッジとディスクが適合しない。	このメディアは使用できません。別のカートリッジを挿入してください。
	54-000 54-001 54-002 54-003	未対応フォーマットのディスクを検出した。	このメディアは使用できません。別のカートリッジを挿入してください。
	54-006	未対応フォーマットのカートリッジメモリを検出した。	このメディアは使用できません。別のカートリッジを挿入してください。
	54-004 54-005 54-007 95-517 95-518	カートリッジメモリへのアクセスができない。	カートリッジを取り出して再挿入してください。

a) ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U の ALARM インジケータ

関連項目

操作時のアラーム

センサーおよびドライブに関するアラーム

操作時のアラーム

LED ^{a)}	アラームコード	意味	対処方法	
1秒間隔で点滅	6D-001	このメディアは使用できません。	ソニーサービス担当者にご相談ください。	
	54-200 54-201 53-502	ディスクの管理領域に異常を検出した。	カートリッジを取り出して再挿入してください。	
	54-004 54-005 54-007 95-517 95-518	カートリッジメモリへのアクセスができない。	カートリッジを取り出して再挿入してください。	
	54-006	未対応フォーマットのカートリッジメモリを検出した。	このメディアは使用できません。別のカートリッジを挿入してください。	
	54-300	記録用ディスクの物理フォーマットを修復しています。	エラー発生中は電源をオフにしないでください。	
	非点灯	22-001	カートリッジに対して、同時複数アクセスが頻繁に行われました。	複数ファイルの同時読出し、ファイル書込み / 読出し中のファイル読出し / 書込み、同一ボリューム内の自己ファイルコピー等の操作は、パフォーマンスの低下を招きますので避けてください。詳しくは「非推奨動作」をご覧ください。
		91-552	マウントに失敗した。	カートリッジを一旦取り出して、挿入し直してください。
91-553		リードエラーが発生した。		
91-554		ライトエラーが発生した。		

a) ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U の ALARM インジケータ

関連項目

カートリッジ挿入時のアラーム

センサーおよびドライブに関するアラーム

センサーおよびドライブに関するアラーム

LED ^{a)}	アラームコード	意味	対処方法
0.25 秒間隔で点滅	95-50D	ドライブの内部温度が異常。	ドライブの使用を継続するとドライブ内部の温度がさらに上昇し、故障や火災につながるおそれがあります。 直ちにドライブの電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。
	95-51D		
	37-901		
	37-A01		
	37-B01		
	37-C01		
	47-901		
	47-A01		
	47-B01		
47-C01			
1 秒間隔で点滅	95-50E	ドライブの内部温度が上昇している。	ドライブの前面および裏面の通風口をふさぐなど、放熱の妨げがないかご確認ください。
	95-51E		
	37-900		
	37-A00		
0.25 秒間隔で点滅	37-B00	ドライブが水平に設置されていない。	ドライブを水平に設置してください。
	37-C00		
	3E-500		
0.25 秒間隔で点滅	95-52A	ドライブユニットのシリアルナンバーの不整合を検出した。	ドライブの調整を行ってください。
	3E-501	ドライブが水平に設置されていない。	ドライブを水平に設置した後に電源を入れなおしてください。
	20-xxx	ドライブのメカニカル制御で異常を検出した。	カートリッジが排出されていない場合は、EJECT ボタンを押して、カートリッジを取り出してください。 取り出せない場合は、ドライブの電源を入れなおしてください。
	20-117	ドライブのメカニカル制御で異常を検出した。	取り扱えないカートリッジが挿入された可能性があります。
	52-00B	ディスクへのアクセスができません。	カートリッジを取り出して再挿入してください。
	52-08B		
	52-10B		
52-18B			
72-00B			
72-08B			
72-10B			
72-18B			

LED ^{a)}	アラームコード	意味	対処方法
1秒間隔で点滅	6F-E00 6F-E80 6F-F00 6F-F80 8F-E00 8F-E80 8F-F00 8F-F80	ディスクへの書き込みができない。	カートリッジを取り出して再挿入してください。
0.25秒間隔で点滅	6F-E03 6F-E83 6F-F03 6F-F83 8F-E03 8F-E83 8F-F03 8F-F83	ディスクへのアクセスができない。	カートリッジを取り出して再挿入してください。
1秒間隔で点滅	3F-511	エアフィルターの交換時期に達した。	エアフィルターを交換してください。 ^{b)}

a) ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U の ALARM インジケータ

b) 詳しくはオペレーションマニュアルをご覧ください。

関連項目

カートリッジ挿入時のアラーム

操作時のアラーム

Optical Disc Archive Utility Command Line Interface について

概要

Optical Disc Archive Utility Command Line Interface は Optical Disc Archive Software に同梱され、Optical Disc Archive Utility の機能の一部を CUI 環境で利用できるコマンドとして提供します。

制限事項

- Optical Disc Archive Utility Command Line Interface のコマンドを複数のプロセスから同時に実行することはできません。
- Optical Disc Archive Utility Command Line Interface のコマンドと Optical Disc Archive Utility の GUI アプリを同時に使用することはできません。
- Optical Disc Archive Utility Command Line Interface の実行には管理者権限が必要です。

コマンドについて

Optical Disc Archive Utility Command Line Interface は、階層構造を持ったコマンド体系を提供します。ベースコマンドである `oda-util` コマンドは `oda-util drive` などのマネジメントコマンドを、さらにマネジメントコマンドは `oda-util drive info` などの具体的な機能を提供するコマンドを持ちます。

ヘルプの表示方法

各コマンドの使い方は、次のように「`--help`」オプションを付けてコマンドを実行し、ヘルプをご覧ください。

ベースコマンドのヘルプを出力

```
# oda-util --help
```

マネジメントコマンドのヘルプを出力

```
# oda-util drive --help
```

コマンドのヘルプを出力

```
# oda-util drive info --help
```

マニュアルの表示方法

詳細な使い方は、次のように `man` コマンドでマニュアルをご覧ください。

ベースコマンドのマニュアルを表示

```
# man oda-util
```

マネジメントコマンドのマニュアルを表示

```
# man oda-util-drive
```

コマンド一覧

oda-util config

Optical Disc Archive Utility の動作モード設定を管理するマネジメントコマンドです。
このコマンドの主な機能は以下のコマンドで提供されます。

利用可能なコマンド

- oda-util config inhibit
ドライブの書き込み禁止を有効または無効に設定します。
- oda-util config parity
未フォーマットの Optical Disc Archive 1 メディアを挿入した際に、PARITY ON または PARITY OFF のどちらでフォーマットするかを設定します。
- oda-util config sync
メディアへのファイル記録完了後、直ちに管理情報をメディアに同期するかどうかを設定します。
- oda-util config verify
Optical Disc Archive 1 メディアのベリファイ記録を有効または無効に設定します。

oda-util drive

ドライブを管理するマネジメントコマンドです。
このコマンドの主な機能は以下のコマンドで提供されます。

利用可能なコマンド

- oda-util drive afpreset
ドライブの Air Filter Parameter をリセットします。
- oda-util drive info
ドライブ情報を出力します。
- oda-util drive update
ドライブのファームウェアを更新します。
- oda-util drive version
ドライブのファームウェアバージョンと、ドライブファームウェアが更新可能かどうかを表示します。

oda-util log

ログを管理するマネジメントコマンドです。
このコマンドの主な機能は以下のコマンドで提供されます。

利用可能なコマンド

- oda-util log export
ログをエクスポートします。

oda-util media

メディアを管理するマネジメントコマンドです。

このコマンドの主な機能は以下のコマンドで提供されます。

利用可能なコマンド

- `oda-util media finalize`
メディアをファイナライズします。(ライトワンスメディアのみ)
- `oda-util media format`
メディアをフォーマットします。
- `oda-util media info`
メディア情報を出力します。
- `oda-util media label`
メディアのボリュームラベルを設定します。
- `oda-util media protect`
メディアへの記録禁止設定を有効または無効に設定します。

ファイルシステムについて

概要

ファイルシステムの概要について説明しています。

- マウント動作
- 制限事項
- 非推奨操作

マウント動作

「ボリューム」とは、フォーマットされたメディアのファイルシステムを意味します。

「マウント」とは、ボリュームへアクセスが可能な状態になることを意味します。

デスクトップ環境では、ボリュームはシステムにより自動マウントされます。現在サポートしている RHEL6 系では、/media/ 以下に、RHEL7 系では、/run/media/user_name/ 以下にマウントされます。

デバイス管理ツールが動作していない環境では、以下の例のように手動でボリュームをマウントしてください。

```
mount -t odataf/dev/sdx/*mount-point
```

*mount-point に、マウントするディレクトリを指定してください。

mount コマンドを実行する際にはルート権限が必要となります。

ファイルシステムタイプに odataf を指定しないと動作に支障をきたすことがありますのでご注意ください。

ブランクメディアの場合

メディアがドライブに挿入されると、自動的にフォーマットされ、ファイルおよびディレクトリの無いエンブティボリュームとしてマウントします。

Optical Disc Archive 1 メディア

あらかじめ、Utility の設定画面 / 規定のボリュームタイプにより、以下のいずれかのボリュームタイプを選択しておくことができます。

- PARITY ON (Max 60000 files)
ディレクトリを含めて、最大 6 万ファイル作成可能なフォーマットです。
ファイルを記録した際に、自動的に冗長なパリティデータが生成されます。
このパリティデータは、ファイル修復が必要な場合に利用されます。
- PARITY OFF (Max 240000 files)
ディレクトリを含めて、最大 24 万ファイル作成可能なフォーマットです。
ファイルを記録した際に、パリティデータは生成されません。

Optical Disc Archive 2 メディア

- PARITY ON (Max 480000 files)
ディレクトリを含めて、最大 48 万ファイル作成可能なフォーマットです。
ファイルを記録した際に、自動的に冗長なパリティデータが生成されます。
このパリティデータは、ファイル修復が必要な場合に利用されます

リライタブルメディアの場合

上記いずれかのボリュームタイプに一度フォーマットされたメディアは、後で Utility のフォーマットを実行するときに [メディア容量を回復する] を選択することで、もう一方のボリュームタイプに変更することができます。

(フォーマットを行うには (容量を回復) を参照)

ライトワンスメディアの場合

上記いずれかのボリュームタイプに一度フォーマットされたメディアを、後でもう一方のボリュームタイプに変更することはできません。

既にフォーマットされたメディアの場合

ボリュームに作成された、ファイル、ディレクトリにアクセスすることができます。

ボリュームが記録操作可能である場合、新たなファイルおよびディレクトリを作成することができます。また既に作成されたファイルおよびディレクトリの読出し、閲覧、削除、名前変更、移動、属性変更の他、ボリュームラベルの変更を行うことができます。

一方で、ボリュームの記録操作が不可または制限されている場合、既に作成されたファイルおよびディレクトリを読出し、閲覧することは可能ですが、ファイルおよびディレクトリの新規作成、名前変更、移動、属性変更の他、ボリュームラベルの変更を行うことはできません。

ボリュームの記録操作が可能であるか否かは、Utility のデバイス画面 / メディア情報 / 記録操作で確認してください。

異常によりボリュームへマウントできない場合

ボリュームに作成された、ファイルおよびディレクトリにアクセスすることはできません。

ボリュームのマウント状態は、Utility のデバイス画面 / メディア情報 / マウント状態で確認してください。

関連項目

デバイス画面 - フォーマット

制限事項

最大ファイル + ディレクトリ数

ボリュームタイプに従い、以下のファイル + ディレクトリ数が作成可能です。

Optical Disc Archive 1 メディア

- PARITY ON (Max 60000 files) : 最大 6 万個
- PARITY OFF (Max 240000 files) : 最大 24 万個

Optical Disc Archive 2 メディア

- PARITY ON (Max 480000 files) : 最大 48 万個

ルートディレクトリは 1 個とカウントされます。エンプティボリュームでも、既にルートディレクトリの 1 個が作成されていることとなります。

ファイルおよびディレクトリ階層

ディレクトリおよびファイル階層は、最大 64 階層まで作成可能です。

ルートディレクトリは、1 階層とカウントされます。

そのルートディレクトリに作成されたファイルは、2 階層目とカウントされます。

ファイル名

作成可能なファイルおよびディレクトリ名は、Unicode 2.0 で表現可能な 1 文字以上、最大 127 文字です。

サロゲートペアで表現される文字は、2 文字とカウントします。

以下の文字は、名前の一部に使用できません。

Code	Character
U+0000	(null)
U+002F	/ (slash)

.(ドット)のみ、または ..(連続したドット) だけの名前を使用することはできません。

同一ディレクトリ内に、大文字小文字無視 (IGNORE CASE) でファイル名を重複させることはできません。

ルートディレクトリ直下に、\$(ダラ)のみ、または \$\$ (連続したダラ) だけの名前を使用することはできません。

ボリュームラベル

設定可能なボリュームラベルは、Unicode 2.0 で表現可能な 1 文字以上、最大 63 文字です。

サロゲートペアで表現される文字は 2 文字とカウントします。

以下の文字は、名前の一部に使用できません。

Code	Character
U+0000 - U+001F	
U+0022	" (double quotation)
U+002A	* (asterisk)
U+002F	/ (slash)
U+003A	: (colon)
U+003C	< (less than)
U+003E	> (greater than)
U+003F	? (question mark)
U+005C	\ (back slash, or Yen mark)
U+007C	(vertical bar)
U+007F	(DEL)

.(ドット) で始まる文字列は使用できません。

ファイル記録

同時に記録モードで開けるファイルは 1 個とし、シーケンシャル記録のみ可能です。

原則、記録済みのファイルを記録モードで開くことはできません。

ただし、以下の記録済みファイルについては、記録モードで開け、シーケンシャル記録による追記が可能です。

- 最後に記録したファイル
- サイズがゼロ (0) のファイル

非推奨操作

ファイルの移動処理中に障害が発生したときに、移動元・移動先共にファイルが消失する恐れがありますので、どのような場合もファイルの移動操作を行わないでください。

カートリッジに対して、下記 [1] ~ [4] いずれかの非推奨操作を行うと、カートリッジへのアクセスが著しく緩慢になり、長時間この状態が続くとカートリッジへのアクセスが一時的に禁止されます。

この禁止状態は、カートリッジを再挿入すると解消されます。

非推奨操作の代わりに、対処方法に書かれた操作を行ってください。

非推奨操作	対処方法
<p>[1] 複数ファイルの同時読出しが行われた。 「操作例」： Nautilus で、ODA メディアに記録されたファイルを Drag&Drop でローカルフォルダーにコピーし、そのコピー中に再度 ODA メディアの別ファイルをローカルフォルダーに Drag&Drop でコピーする。</p> <p>この両コピー操作はエラーとなりませんが、特に両ファイルが別のディスクに配置されていた場合、64KB ~ 1MB ごとにディスク交換が発生する為、著しく転送速度が低下し、メディアの耐久性に悪影響を及ぼします。</p>	<p>ひとつ目のファイルをローカルフォルダ（PC のハードディスク等）へコピーし終わってから、次のファイルのコピーを開始してください。</p>
<p>[2] ファイル記録中のファイル読出し、ファイル読出し中のファイル記録が行われた。 「操作例」： Nautilus で、ローカルフォルダー内のファイルを ODA メディアに Drag&Drop でコピーし、そのコピー中に ODA メディアの別のファイルをローカルフォルダーに Drag&Drop でコピーする。</p> <p>この両コピー操作は継続されますが、特に後者の ODA メディアからの読出しファイルが最終記録ディスク以外に配置されていた場合、64KB ~ 32MB ごとにディスク交換が発生する為、著しく転送速度が低下し、メディアの耐久性に悪影響を及ぼします。</p>	<p>ODA メディアへのファイルコピーが完了してから、メディア上のファイルをローカルフォルダー（PC のハードディスク等）にコピーしてください。</p>

非推奨操作	対処方法
<p>[3]</p> <p>同じボリューム内での、自己ファイルコピーが行われた。</p> <p>「操作例」： Nautilus で、ODA メディアに記録されたファイルを右クリックドラッグし、ODA メディアのフォルダ上でドロップ後 [ここにコピー] を選択する。</p> <p>このコピー操作はエラーとなりませんが、特にコピー元のファイルが別のディスクに配置されていた場合、64KB ~ 32MB ごとにディスク交換が発生する為、著しく転送速度が低下し、メディアの耐久性に悪影響を及ぼします。</p>	<p>該当のファイルを一度 PC のハードディスク等にコピーした後に、そのファイルを再度ハードディスクから ODA メディアにコピーしてください。</p>
<p>[4]</p> <p>ディスクを跨るファイルのランダム位置への読出しが行われた。</p> <p>「操作例」： XDCAM Viewer で、ディスクを跨って ODA メディアに記録されたクリップファイルを再生中、ポジションバーを大きく左右にスクラブする操作を行う。</p> <p>この操作により、頻繁なディスク交換が発生する為、著しく転送速度が低下し、メディアの耐久性に悪影響を及ぼします。</p>	<p>該当のファイルを PC のハードディスク等にコピーした後に、この（コピーした）ファイルに対してスクラブ等の Viewing 操作を行ってください。</p> <p>ODA メディアへ記録する際に、Content Manager (ODA 推奨ソフトウェア) をご利用いただきますと、ディスクを跨いだ記録を抑制することができます（記録するファイル容量がディスク空き容量より大きい場合等、条件によっては、ディスク跨ぎを抑制できないことがあります）。</p>

商標について

- Optical Disc Archive Drive ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- Intel Core 2 Duo および Intel Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac OS は米国およびその他の国で登録されている Apple, Inc. の商標です。
- EEMBC および CoreMark-Pro は、Embedded Microprocessor Benchmark Consortium の登録商標です。